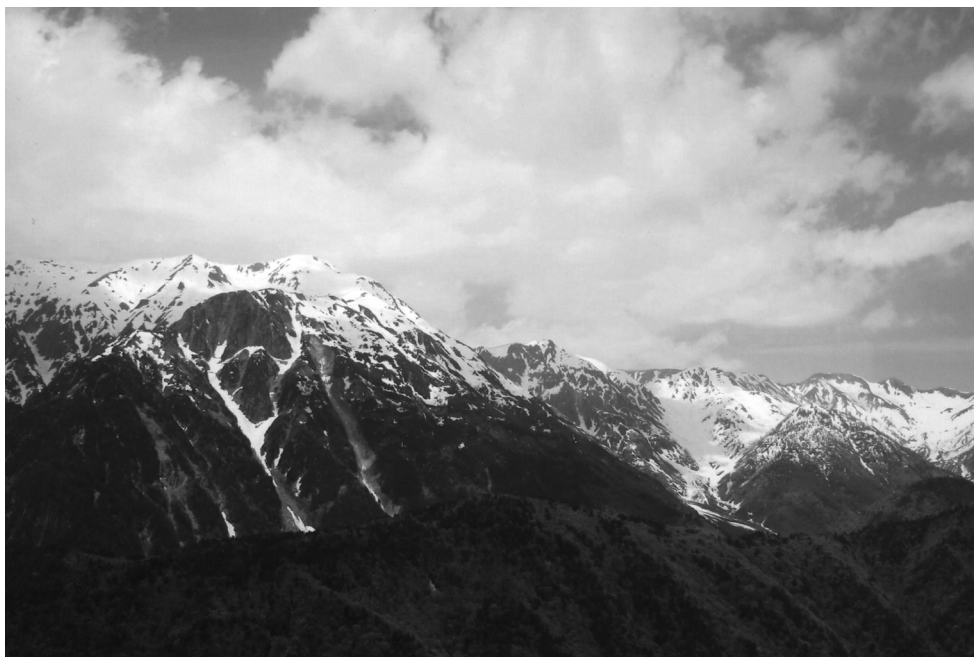


# らいゆう

平成24年（2012） No.99

夏号



## 社会福祉法人 来友会

軽費老人ホーム	来友館
居宅介護事業所	らいゆう
小規模多機能ホーム	くすのき

# 来友館



## もくじ

死を考える時が来た	理事長 西座 新一	2
厚生労働大臣表彰	柿元 キミ子	3
子供の頃の思い出	利用者	4～7
職員の実験を生かす	職員一同	8～19
泉佐野市の名称権を売却について	市議会議員 法人理事 中村 哲夫	20～21
遠い夏	法人理事 吉田 基幸	22～28
カメラ散歩	理事長 西座 新一	29～32
表紙写真説明	理事長 西座 新一	33～34
編集だより		34



楠を中心に左が来友館で右がくすのきです

## 死を考える時が来た

理事長 西座 新一

九年近く前に父を亡くし、今年の冬の終わりに母を亡くし、葬儀を済ませました。これで次は順番でゆくと家内の母を除き、私が一番の年上になります。たかだか五十年前は人は病院より普通に家で亡くなっていました。ところが、今は九割の方が何らかの形で、病院で臨終を迎えています。ここでは直ぐに医師が死亡診断書を書いてくれ、市役所に届けて、火葬の許可がもらえます。

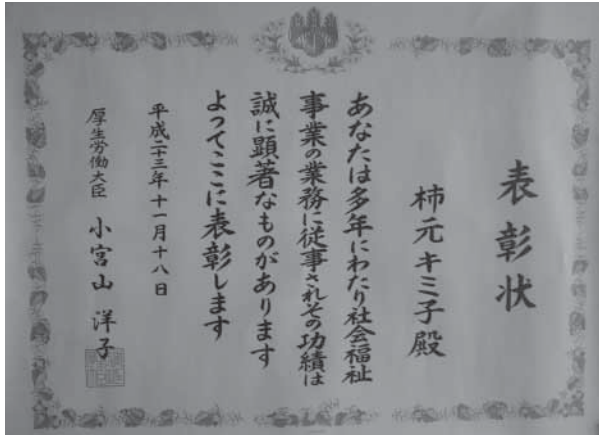
ところが家族が家でなくなると厄介なことになります。一応救急車を呼んで病院で医師に死亡を確認してもらいますが、すでに死亡して病院に担ぎ込まれた状態ですと、警察官が家族に事情聴取をはじめます。不審死の疑いが否定できないからです。遺体は病院から警察の霊安室に移さ

れ、警察の指定する検視医の死体検案を受けます。死体検案書は検視を請け負った医師の診療所まで三万円を持ってもらいに行きます。この死体検案書を持って再び警察署を訪れ、担当警察官の証明印を貰いますと、遺体の引渡しを受けます。また、市役所に死亡届けを提出してやっと火葬の許可がもらえます。引き渡される遺体は全裸ですから、必ず下着と着物を用意して葬儀屋さんと一緒に霊柩車で葬儀場まで運んで、やっと葬儀の用意が出来ます。

しかし、病院で死のうと思えば中心静脈栄養、胃瘻、気管内挿管、気管切開、人工呼吸、人工透析などの延命治療を施され、ベッド上でスパゲッティ状態で、心臓が止まるまで、人工的に生かされるのも如何なものでしょうか。

柿元キミ子さんが厚生労働大臣表彰を受けられました。柿元さん、昭和59年5月軽費老人ホーム来友館に奉職、平成17年1月定年退職されましたが以後も嘱託として勤務、一貫して福祉事業に貢献されました。

この度の受賞をお祝い申し上げますとともに、今後の益々のご活躍をお祈り致します。



## 柿元 キミ子

平成二十三年度、厚生労働大臣表彰をいただきました。正直思いがけなく、私でいいのか迷いもありました。功なきを恥ずる心は、重くのしかかり、しばらくは自分自身心配で不安な気がしてなりませんでした。その時に「深く考えず東京見物を兼ねて行って来たら」と言っておさった、くすのき所長さんが背中を押して下さり気持ち少し楽になりました。東京日比谷公会堂での式典に出席させていただきました。この名誉ある表彰は、私を育てて下さった方々の御蔭です。よき師、よき仲間、入居されている皆様そして来友館施設長さんの力添があつたからこそと思います。皆様の指導の下でいたならぬ事も多く、励まし、その仕事の場を与えて下さったので、今日の私があり大変幸福者です。この名誉を汚



職員代表から記念品を受け取る柿元さん(右)

さぬ様に身をひきしめて行かねばと思っております。心から厚く感謝申し上げます。ありがとうございます。

入居者の方々に子供の頃の思い出を聞きました。

友達のこと、家族のこと、どんな遊びをしたのか皆さん思い出し乍ら話してくれました。

ゆっくりと話を聞かせてもらいました。編集員で文章にしました。ご自分の思い出と重ね合わせて読んで下さい。



## 今井 フサエ

私は和泉市の父鬼という所で生まれました。地名にどんな由来があるのかは知りません。

ただ山奥でした。下の村迄も坂道を下らなくてはなりません。行き止まりで細い山道の先の峠を越えると和歌山です。

結婚して堺市へ行くまで父鬼を出たことがない程田舎者でした。

そんな訳で夏は蛸とり、セミとり、村がきれいな水の谷川に沿っていたので魚とりはよくしました。ザルで魚をすくい、持って帰って食べました。その川でよく泳ぎました。

わらびを取ったり、夏の楽しみは川で冷やしたスイカです。

小さい頃の思い出には川のことしかありませんが、今でもそれで十分だと思っています。

## 島原 照和

私は昭和9年、高知県の「沖の島」という小さな島で生まれました。祖父も父もこの小さな島の神社の神主をしていました。

島なので当然四方は海、海と小高い山、ここで遊ぶしか他には何もありません。

魚をとったり釣ったりは当たり前、砂浜では貝がいくらでも取れました。家では海水から塩を作っていました。

山では自分でブランコを作って遊んでいました。しいたけなどもとったのを覚えています。

今考えれば自給自足を絵に描いたような子供の頃でした。

ただ海を見ながらいつも考えていました。この海の向こうには何があるのか、海を渡って行けばどんな人に会えるのか、一度行ってみたい、いつもそんな事を考えていました。

唐原 幸子

私はインドネシア、ジャワ島で大正15年に生まれました。

ドイツ語、中国語、オランダ語など言葉が入りまじった中で育ちました。日本が戦争に突入する直前でしたので国威発揚の為日本人としての教育を強制されました。ジャワの同年代の子供と遊んでいましたが、石ケリや人形遊びなど日本の遊びしか出来ませんでした。

当地の子供達の遊びもしたかったのですが、それは望外のことでした。

第二次大戦突入の直前のことでしたが、日本軍の船が来て乗せてもらうのが楽しみでした。

その時に高松の宮様に謁見し、お言葉をかけられたのが強く心に残っています。

今でも生まれた所ジャワ島のことを懐かしく思います。

橋本 千代子

私は広島県呉市の出身です。近くに海があり、夏になると父がボートに、ぶどうやスイカなどの果物を積んで沖の方まで行きました。沖では泳いだり潜ったりして遊び、その後はおいしい果物を食べ、又遊んで楽しい時間を過ごしました。子供の頃が一番の思い出です。今ではあんな楽しい事ができないのが残念です。そして忘れられないのは、戦争です。幼い頃は何も無い時代でしたが、毎日楽しく過ごしていましたが、十代は戦争中で楽しい思い出はありません。十八才の時に原爆にあっています。目の前が大きな綿がしが、弾けて街全体が赤く染まっていく光景は、今だに忘れる事ができません。子供の頃の思い出より、戦争中の思い出の方が強いです。悲しい経験をしてきました。

松田 シゲ子

私は貝塚出身で小学生の頃は、近所の女友達とよく津田川に遊びに行きました。今では考えられません。魚やカニが沢山いてきれいな川でした。

食べ物豊富になかったので海に行く時は、煎ったそば豆を袋に入れて持たせてくれました。その袋を腰に付け泳いでいると、お腹の空いた頃にやわらかく、食べ頃になるのでその豆を食べたのを覚えています。

小さい子供と遊ぶ時は、山で鬼ごっこをして遊びました。あやつは山に色々なっていた果物を食べました。その頃はとてもおいしく思いました。私は、友達と遊ぶ事がとても好きだったので、家にいる事がなく外でよく遊びまわっていました。

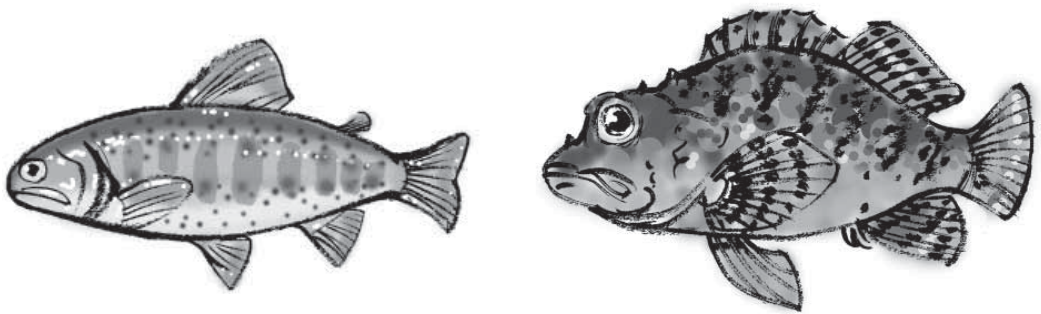
### 三好 定美

私は小さい頃四国香川県のいぶき島と言う所で育った。小さい島で周りには何も無く、海が唯一の遊び場だった。

親はイワシ漁をしていて、その煮干しはとても有名でした。

友達は沢山いたが、海に行くのは一人で行くのが好きでした。今では考えられないが、サザエやタコをよくとりに行きました。魚も潜らずに浅瀬でつかまえる事が出来、持ち帰って食べたのを覚えています。

小さい頃から海の近くで育った為、大人になってからも漁師の道に進み沢山の魚をとりました。



### 萩原 光男

小学校時代の夏休みの思い出と言えば、他の学校の子たちとケンカばかりしていました。まわりから大将と呼ばれるほどやんちゃで毎日傷だらけで帰るたび、親に怒られ、それでもこりませんでした。中学校時代には、妹だけ疎開し私は東京に残り、学校に通っていました。戦時中の為軍事教訓といい、戦う技術をたたきこまれました。他にも工業学校に通っていたため、学生動員で工場に行き、飛行機のメーターを作ったりなど、学生ながらタダ働きのような毎日でした。そんな中学生時代の夏休みといえば、友達と兵隊ごっこをして遊んでいました。当時はそんなことしか遊ぶことがなく、泥だらけになり帰っていました。

## 萩原 昌子

小学校の4年生の頃でした。当時のことは特に頭の中に残っています。昭和19年のことです。

私は東京に住んでいましたが、戦争に追われるように疎開をしました。そこは静岡県の藤沢市のお寺でした。

しかし米軍機が富士山を目掛けて飛んで来る為、爆撃が激しくなり、また岩手県の胆沢郡という所へ移りました。

そこもお寺でした。山深い田舎で食べ物に不自由したことを思い出します。

魚などはなく、たまに干物が口に入る程度でした。

更に戦争が激しくなり、そんな岩手県の山奥にまでアメリカ軍の飛行機が飛んで来ました。

その度に私達は命からがら裏山に逃げ込みました。

毎日空腹でしたが、ある時、地元の人々が私達疎開児童の為におもちゃをついてくれて、お腹一杯食べたのを覚えています。

あの親切な人達は今どうしているのかなあ、と思います。



## 奥野 ヨシ子

私には3人の仲の良い友達がいましました。家の近くに山や川があったので、夏休みになるとよく遊びに行き

ました。よく4人で競争などをし、お菓子やジューズなどを賭けていました。私は負けず嫌いでしたので勝負事が多かったです。川では勝負だけでなく、アミで魚をとって遊ぶ事も好きでした。その時には友達と力を合わせて魚をとりました。きれいな川だったので、沢山魚をとれる事もあり、家に持って帰って焼いて食べました。毎日のように川や山で遊びまわる私は女の子とは思えない程自然を楽しんでいました。もう一つの夏の思い出は歌の大会に出た事です。歌が大好きで大会前の稽古は苦になりませんでした。大会では賞を沢山頂き、まわりの方々からほめられ、とてもうれしかったです。

川や山で遊びまわっていた私、歌の大会での輝く私。どちらも私にとって大切な思い出です。



職員には過去の体験を書いてもらいました。

その体験から得た知識をどの様に仕事に役立てているのか、それをまとめてもらいました。原文のまま掲載します。



## 来友館 施設長 西座 新一

過去の体験といえは、この年にもなれば色々な事がありました。学生時代に教育や道徳を学んだこと。大学院の夏季休暇を利用して北米大陸を四十日かけてバスで横断したこと。会社に就職して社会に出て、社会で生きるための常識を学んだこと。また、仕事をする上での専門職能力を身につけたこと。三十九歳で管理職に登用され、自分より年上の部下だけを率いなければならなかったこと。ギランバレー症候群という十万人に一人という奇病にかかり、体の自由を奪われ三ヶ月以上の休業を余儀なくされたこと。父が突然心筋梗塞の病で倒れ、主治医から長くて三年の命といわれ、上場企業の管理職の地位を捨て、退職と同時に軽費老人ホームの施設長の職に就いたこと。同時に大阪府社会福祉協議会老人施設部

会軽費分科会に参加したこと。三年後には経験もないのに分科会運営委員に選出されたこと。それから六年後には分科会長に選ばれ、当て職として老人施設部会副部長として十年間務め、また全国老人福祉施設協議会の大阪府選出の協議員として六年間、全国軽費老人ホーム協議会の近畿支部の代表として副会長を十三年間（平成二十四年三月末まで）務めた事が体験の総てです。では過去の体験は今の職場で何が役立っているかと言いますと、経験は今の自分を作っている総てであり、過去の体験なくして、今の自分はないといっても過言ではありません。人生経験の少ない若い方々に老婆心ながら申し上げたいことは、どんな仕事でも嫌と思わずこの経験が人生の糧になると信じて、多くの体験を積み重ねてください。

## 根来 ユリ子

私は内向的な性格で人とうまく接する事が苦手でした。でもなぜか人と関わる仕事に就きました。そして何年かして資格を取得しましたが、人間関係に自信がなく、悩む毎日が続き、話し方入門講座を受けようと真剣に考えていた時、友人の勧めで、ある仏法にめぐり合いました。友人は色々なミニ座に誘ってくれ、そこで一言「何でもいいから今日誰かに会った事、何か思っている事何でもいいから一言云って」と云われ、皆の前で話す様になり一年間つき合ってくれ、ふり返ると何でも話せる自分に変わっていました。色々な所で体験発表もさせて頂きました。自信ができました。そして自分の事ばかり祈っていた自分から人の悩みや、苦しみ、悲しみを持っておられる入居者、又遠方から来館して下さいる家

族、忙しい中かけつけて下さる家族の事も感謝出来る自分に変わりました。もっともっと心を磨き縁する人を思いやれる自分に又、笑顔がでにくい自分から笑顔で接していける自分に努力していきたいと思えます。



## 多部 敦子

現代までひたすら食に通じる仕事に関わってきました。

本来食ることが好きなせいでもありません。

ビジネスではスタッフに苦労しました。土台があっても人材に恵まれないとやっていけません。それに緻密に計算するほど無駄というものが容赦なく発生します。

信頼関係だけでも成り立たないし、シビアにいくと孤立もする。

まさに逆転の構図です。そんな中でも不思議とその時々、エキスパートナーとなる存在に出会い団結できました。

色んな危機に直面しましたが、もともと楽天家の気質が功を招く結果にもなりました。失敗か成功か？よりもその歩いてきたプロセスに意義があり、それが自分自身を形成して

いっしょになる。

今の仕事にどう反映されるか重なるのはむしろかしいですが、とにかく自分の力を信じたいですね。頭の中のソフトは確実に今のコンセプトに動いているわけです。非常に冷静に。

### 金子 弥生

私は今まで特にバイトをしていたような経験もなく、社会経験が全くない状態で来友館に就職しました。そのため、「役に立つ過去の体験」と言えるものが特になく、来友館で学ばせていただいた事が私の基礎になっています。来友館に入社してから私は援助に関する知識だけでなく、言葉遣いや対人対応の仕方、調理の基礎、網戸の張替え、トイレの便座の取り付け・取り外し、工具の使い方、

機会や電気関係の知識、防災に関する知識など色々なことを学ばせて頂き、先輩職員さんや入居者の皆様に色々な迷惑をかけながら少しずつ学び、成長できてきたと思っています。また踊りクラブを担当した時には、着物のたため方や着付け、踊りを身に付けただけでなく、クラブの運営や管理等「責任をもつ」ということも教わりました。

自分が入社してから周りの環境も変わり、自分が置かれている立場にも変化がありました。年月が経つにつれ今までは教わる立場でしたが、現在は新しいスタッフも増え、教わるだけではなくりました。私は「教える」というのが得意ではないので、自分が今まで教わったことをどれだけ引き継いでいけるか些か不安ではあります。しかし、先輩職員さんが自分に一生懸命に教えてくれたこと

を見習い手本にして頑張っていきたいと思えます。ここで学んだことを礎として、これからも来友館の良いところを守り、職員で盛り立てていくように努力したいです。

### 山本 絹子

医療の世界で生きてきたので、臨床現場しか知りませんが、過去の経験が現在役に立っている事と言えば、数種の診療科目の経験だと思っています。外科・整形外科・救急外来を経験して、後に呼吸器内科、小児の慢性疾患の病棟を最後に切迫流産の為に休職し、そのまま退職して家庭に入りました。数年間はお気楽専業主婦でしたが、二人目を出産後に再就職しました。しかし、思っていた以上に就職活動は難航でした。出来れば外科系の病

院で働きたいと思っていただけなのですが、小さな子供がいると直ぐ休むからと、面接どころか電話の問い合わせで断られてしまいました。なので、小さいお子さんがいてもいいですよとお返事いただいた時は、これを逃しちゃうならないと思い即決めました。そこは今まで経験した事のない、お年寄りの入院が圧倒的に多い病院でした。これが高齢者との関わりの初めになりました。介護保険が始まる前は高齢者であっても、積極的治療が行われていましたので、兎に角忙しい。そして婦長が厳しくて、まるで実習生のように質問攻めにされるので、子供らを寝かせてから毎晩、本を広げて勉強していました。多分人生の中で一番勉強したのがこの頃だったと思います。その甲斐があつて、教科書でしか知らなかった事を実践で学び、知識は確実に増えて行きました。



た。教科書でしか知らない事は自信が持てませんが、実践として経験した事は自信を持って対応する事が出来ます。病院のように高度な技術や知識を求められる事はありませんが、病院で働いている時に高齢者との関わりがあつた事は、多少なりとも来友館で役立つと思っています。ただ、施設の中に行くと新しい医療の情報に疎くなるので、意識して情報を得なければならぬと思いますね。

**甲斐 佐代子**

私が仕事をする上でいつも頭の中にあり、忘れることができない事は「祖父」です。祖父とは同居しておりました。私は祖父が大好きでいつもどこに行くのも一緒でした。祖父の里の宮崎に行ったり、祖父の大好きな高校野球を見に甲子園に行ったりと、本当に何処に行くにも一緒に楽しい思い出がありません。そんな祖父との生活が今の仕事に役立っているかなと思います。歳を重ねるごとに頑固になっていく祖父、九十歳を超えても自転車に乗っていたため、周りのみんなには反対されていましたが、最後まで自分のできる事は自分でこなし、自分らしく生きぬいた祖父が私の自慢でした。来友館の皆様にも自分らしくいつまでもお元気で生活して頂きたいと思っています。そんな皆様のお手伝いをさせて頂きた

いと思います。

祖父がいつも言っていた言葉「夢を諦めないこと、そして努力すること」その言葉をいつも胸に刻みながら仕事をし、そして生活しています。辛くてくじけそうになる時もありますが、そんな時には祖父の言葉を優しい顔を思い出し頑張っています。これからも祖父の想い出を大事にし、仕事面で役立っていければ、きっと祖父も喜んでもらえるかなと思います。



## 野際 浩子

子育ても一段落し、専業主婦だった私は社会復帰する事にしました。八年間も家庭に居たので、家事、育児、仕事と上手く両立出来るか不安もありました。

又、就職と簡単に考えてましたが、年齢制限、勤務時間や資格が必要だったり条件のある中から選ぶしかありませんでした。

ある日、整骨院の受付兼助手の募集があり早速、面接を受け採用されました。

今まで、事務仕事しかした事のない私にしては初めての接客業でした。どちらかと言えば、おとなしい方なので最初は「おはようございます」「おだいじに」を言うのが精一杯でした。そんな私に、患者さんの方から、孫の話や、自分の体の痛い所の話をしてくれて私の緊張をほぐしてくれま

した。

□下手だった私が、自分から話しかける様になりました。その頃、ヘルパーの資格を取り患者さんの対応に役立てました。

その後、来友館の厨房の仕事をやる事になりました。

入居者の皆さんとは食堂で会話するぐらいしか機会はありませんが自然に声かけ出来る私です。又、見守りしながら転倒や誤えんしない様に接していきたいと思います。

## 高井 時子

私は以前勤めていた所も来友館と同じ様な軽費老人ホームでした。定年まで勤めたかったです、やむを得ず十八年で退職しました。

その後すべ病院で一年、特養で一

年勤めでしたが、やっぱり私には前  
の様な職場が合っている気がして、  
ハローワークで捜していた所、来友  
館を紹介してもらいました。

それから早一年が経ちました。ま  
だ名前も覚えてもらえてないかなと  
思う時もありますがとても働きやす  
い職場でよかつたなと思います。

私は祖父母といっしょにずっと暮  
らしてきたせいか、お年寄りと世間  
話をしたり、昔の話を聞いたりする  
のが好きです。人生の大先輩との会  
話の中には見習う事が、たくさんあ  
ると思います。

毎日仕事をして行く中で徐々に信  
頼関係ができて、利用者さんとのコ  
ミュニケーションをとれるようにが  
んばりたいと思います。

早出の仕事は、あいさつの他に、  
一言二言の会話ができる場であり、  
大変忙しいけれど接点が普段より多

くあって楽しいです。

いつか気軽に話しかけられるよう  
な職員になりたいと思っています。  
これからもよろしくお願いします。

## 森下 良

来友館で働き始める少し前に、福  
祉の専門学校に通ってた時期があり  
ます。3ヶ月という短い期間でした  
がその中で得たものは今の自分を形  
成するのにとても大きな影響があっ  
たと感じています。

専門学校での最初の講義が始まり、  
なんとなく周りを見渡して吃驚しま  
した。お母さん世代の人たちばかり  
で近い年齢のましてや男の子なんて  
存在しませんでした。この環境で3ヶ  
月過ごすのか、やっていけるのかな  
…と不安がありませんでした。し

かし不安とは裏腹に環境になれるの  
はそう時間はかかりませんでした。  
気がついたら講義の合間の休み時間  
にごく自然に前後の人と談笑したり、  
帰りにご飯を食べに行ったり、飲み  
に連れて行ってもらったり、家でご  
馳走に呼ばれたりするようになったら、  
その環境に慣れたことで今の職場で  
同じような層の先輩たちが居る環境  
で違和感無く生きていける土台が自  
然と身についたと思います。

また専門学校での職場実習先の職  
員から「男性職員に対して洗濯や掃  
除をしてもらうなんてバチがあたる  
と遠慮したり、威圧感を感じてしま  
う利用者は多い」という話を訪問介  
護先への道すがらにしていたら、  
やわらかい対応を心がけ、そういう  
壁を取っ払える職員になろうと自転  
車を漕ぎながら決意しました。なの  
で今、来友館で「女の子やと思って

たわ」「お兄さんかお姉さんか迷ったわ」などと入居者さんから冗談半分に声をかけられるのは、あの時の決意が身になっているのかなと正直嬉しく感じています。

## 横井 亜紀

今月六月四日から、お世話になりはじめ、今回まず季刊らいうつとは、どのようなことをしているのかを教えてくださいました。

今回、このようなテーマで「過去の体験を通して今の職場で役に立っている事、立てようとしている事」ですが、過去の体験を今の職場の過去に置き換えてみた所、僅か二週間が経ちました。現状の私だと、毎日の日々が今後の自分にとって、役に立っている事はかたじけなく感じています。

また、よく使われる3Sや5Sには、御存知のように、「整理」・「整頓」・「清掃」・「清潔」・「躰」と過去の体験で学んだことを思い出してみました。これらについても役に立っているもので、役立てていくことだと考えています。

従来から築かれてきた、来友館の職場での仕事の流れの歴史を、しっかりと受け継いでいかなければならぬと感じた次第です。

しかし、「日々の実践」に活かせるようになるには、まだ「駆け出し」です。

「一日の遅れは十日の遅れ」とならないよう、日々の積み重ねを大切にしていこうと思っています。

## くすのき 所長 西座 久史

今回のテーマで思いついたことは、過去にアルバイトでよく接客業をしていたことでしょうか。福祉の仕事はサービス業です。サービス業は接客業です。接客業は、「人と接すること」ですから、人と接する以上、その人に合わせた接客をしなければなりません。

私は、大学時代から家庭教師、居酒屋、予備校の窓口業務、靴屋などのアルバイトをしてきましたが、アルバイトをしているときは賃金さえもらえれば良いという安易な気持ちで働いていた記憶があります。しかし、実際振り返ってみると過去のアルバイトから学ぶことは多かつたように思います。最も自分自身に身についたことは、その人がどういう人かを判断するための「洞察力」ではないかと思っています。

当たり前のことですが、人は十人十色ですから様々な性格の方がおられます。そのため短い会話の中でその人がどういった考え方を持っているかを見極める必要があります。例えば、その人の言葉使い、内容、態度、仕草等、短い会話からでもその人について得られることは沢山あります。靴屋さんで働いていた時は、お客さんの話やリアクションを見て靴を買う気があるのかなのか、どういう商品を求めているか、どういう風に勧めたら買うかなどを毎回考えながら自然と学んでいたように思います。その人から発信される情報を見逃さないでその人を理解し、その人と接することは福祉の世界においても非常に重要なことです。したがって、過去に培った洞察力が現在の仕事においてても役に立っているのではないかと思います。

## 山本 政子

過去の体験を通して今の職場で役立っている事はいつでも家を空けることが出来る事です。来友館で仕事を始めるまでは夕方、家族が帰ってくるまでに風呂の用意と夕食の用意を済ませ、部屋には明かりを付け、冬は暖かい部屋にしておくという生活でした。もちろん、家族みんなで出かける時は別ですが土曜・日曜・祝日・盆・正月に家を空けるなど問題外です。来友館で仕事をする様になつてからは家を空ける事が出来る様になりました。今では事業所から預かっている携帯電話が鳴ると「行かんでも良いか」と言ってくれます。やはり、家族みんなが居るときに自分だけが出かける事に気が惹けるところもあります。ご利用者様から時間に関係なく携帯電話が鳴った時、家を空けられるようになり役立って

います。それと泊まりがけの旅行にも行けるようになりました。

## 木本 和紀

私は小さい頃より親が兼業農家だった事もあり、学校の休みの日は、家の手伝いを嫌々させられていました。農業は泥で汚れるし、自営業の電気工事を手伝うと油で汚れるし、それが嫌で逃亡して怒られる事が多々ありました。

その手伝いをしている時よく親父に言われていた事があります。「嫌な仕事でも楽しいと思つてすれば楽しくなる」「最初からなんでも無理と思ふな」とよく言われていたのを思い出します。

その時は何でも嫌と断らず仕事をして損をしている親をみて何を訳のわからない事を言っているんだ勝手



に一人でやってくれと思っていました。

私はこの職場以外仕事をした事はないですが、実際自分が仕事をしてみると、嫌々しているより楽しいと思つて笑顔で仕事をする方が、利用者のみなさんといひ関係を築けると最近では思つようになりました。

酔つ払つて怒つてばかりの口うるさいオヤジでもたまにはいい事を言うのだなと改めて思いました。

就職して十三年目で二児の父親になり子供にも色々教えられるよう、これからも「嫌な仕事でも楽しいと思つてすれば楽しくなる」「最初からなんでも無理と思つな」とおそわつた事を実践できるようにしたいと思っています。

そして皆さんが少しでも笑顔で話しやすい職員になれるよう頑張りたいと思つます。

## 大谷 玲子

過去の体験を通して役に立っている事で思い起こすのは私は小さい頃から、祖父母と暮らしてきました。家が薬局をしており、祖父と二人で店のカウンターに立ち、相手をしていました。祖父は性格が明るくいつも元気で冗談をよく言つて楽しませてくれるので、薬をご近所様に配達に行くのにも、行きつけの床屋さんに行くのにも後をついて行き、行った先の人達と話をしているのに加わつたり聞いたりしていました。また毎週日曜日には祖父母と三人で一週間分の食料を大きいスーパーに買い物に行くのが恒例でした。人見知りで自分から話しかけたりするのが苦手な私ですが、コミュニケーションをとるこのお仕事に就けたのも、祖父母と小さい頃から接したおかげかなと今となつて思つます。

昔から楽しくをモットーに生きている祖父母を見ならつて、利用者の皆様と楽しくコミュニケーションをとれるように、頑張りたいと思つます。

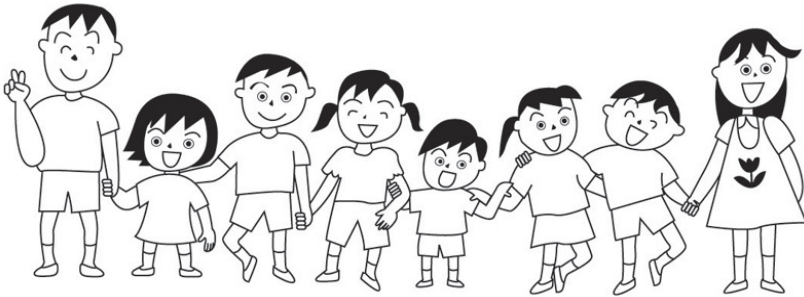


## 梅田 彩

過去の体験を通して今の職場で役に立っている事、立てようとしている事は、コミュニケーションをとる事です。私はまだ社会人二年目ですが、今までにたくさんの方との出会いがありました。同級生や友達、先生や先輩、親と出かけることが多かったので人生の先輩とも出会うことがあり、コミュニケーションをとることが苦手だった私は、たくさん のことを教えて頂き、自分からコミュニケーションを取る事が出来るようになりました。

色々な人とのコミュニケーションから得るものがたくさんあり、その中で相手のことを知りたいという気持ちがある中でもあります。この気持ちは今の職場ではすごく役に立っていて、いろんな方との会話から勉強になっています。これからもこの

仕事でコミュニケーションをたくさんとり、その中で自分のスキルアップが出来るように役立てたいと思います。



## 渡辺 昌子

私が仕事をする上で心掛けている事は、「自分はその人の暮らしのお手伝いをさせてもらう。」という気持ちです。以前「最期は自宅で家族と過ごしたい。」と退院された末期がんの方の介護をさせていただいてから、より強く思うようになりました。

退院されるときは医師から「帰ってから一週間がヤマです。」と言われていましたが、ご家族と過ごされるうちに表情も変化し、よく話し笑われるようになりました。しかし、年齢もお若かったので進行が早く、この間までご自分でできていた、歯ブラシを持つことやフォークやスプーンを使うことなどが徐々にできなくなっていききました。同時に痛みを訴えられることが多くなり、ご自分ではどうすることもできない苛立ちと不安で日によって、荒々しい口調に